



水稻「なつほのか」

背白粒の発生を回避 移植時期をマップ化

水稻「なつほのか」の移植時期による気温と品質との関係を解析した結果、出穂後20日間の平均気温が29度を超えると、高温障害の指標である背白粒が多

発する傾向にあることが明らかになりました。

そこで、高温障害を回避するため、農研機構で開発されたプログラムを用いて出穂後20日間の平均気温が29度を超えない移植期を推定できる予測式を作成しました。

2018年の平均気温を用いた予測式によると、農林技術開発センター（諫早市貝津町）における高温障害を回避できる移植期は4月16日以前と6月15日以降と推定されます。

予測式を活用して移植時期をマップ化していますので、各地域では水利条件や共同乾燥施設の運営なども考慮して移植期の決定に活用できます。

各地域の振興局・JAにご相談のうえ計画的な移植を行ってください。

（農林技術開発センター・作物研究室 古賀潤弥）